

．がん対策部

本会のがん対策は、婦人科がん検診事業においては、いわゆる“日母方式”(会員施設を活用した施設検診)を構築し、子宮がん検診で“日母クラス分類”を産み出した。乳がん検診では視触診による検診事業への参画後、マンモグラム(MMG)導入に際しては、読影医の育成と地域の実情にあった読影方式の開拓(検診施設、検診医、読影医の関与と精度管理)で対応してきており、現在もその対応は事業の主要な柱となっている。その他の婦人科関連臓器としては、卵巣がんを取り上げ、検診事業としての可否を長年にわたって検討してきている。

これらの対応と検討は、医学・検診技術の進歩、行政施策の推移、社会的な要求等を真摯に受け止めて、絶えずそれらを会員の現状に即した形で、婦人科がん検診事業における精度管理体制の確立を目指してきたスタンスと言えよう。本年度もこのスタンスのもとに以下の事業を遂行した。

本年度は、行政施策「健康日本21」との連携、検診の有効性、MMG読影医育成並びに精度管理の向上を図る一環としての検診アイテム(検診用紙・用具、検体標本等々)にも目を向けた事業展開を行った。

1. 「第22回全国支部がん対策担当者連絡会」の開催準備

平成16年度早々に開催すべく、本年度はその充電期間として連絡会を開催せずに資料作成や、支部担当者にとってより望まれる講演演題の選定をした。

日 時：平成16年7月4日(日) 11:00~16:00

場 所：新宿・京王プラザホテル

特別講演：いずれも仮題として以下を選定。

「がん検診の新たなガイドラインについて」

：厚生労働省老人保健課(椎葉茂樹課長補佐)

「子宮がん検診の動向について」：子宮がん検診小委員会(今野小委員長)

2. 乳がん検診へのマンモグラフィ(MMG)導入への対応

日本乳癌検診学会、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会(精中委)の全面協力を得て、MMG導入に向けた会員研修(指導医養成)等を以下のとおり行った。

(1) 「乳がん検診用マンモグラム読影に関する研修会」の開催

精中委(教育・研修委員会：遠藤登喜子委員長)との共催による乳がん検診用マンモグラム読影に関する研修会を3回開催した。

[第9回]日 時：平成15年7月12、13日(土/日)(8:30/19:10)

場 所：社会保険横浜看護専門学校(神奈川県横浜市)

出席者：69名(受講者44名、準講師6名、講師他関係者19名)

成績評価：A/0名、B1/12名、B2/1名、C/20名、D/11名

第1日目：7月12日(土)

1) あいさつ

司会・進行：日本産婦人科医会幹事 宇津野 栄

日本産婦人科医会常務理事 永井 宏

日本産婦人科医会がん対策委員会副委員長 鎌田 正晴

聖マリアンナ医科大学産婦人科代表教授 石塚 文平

マンモグラフィ検診精中委教育・研修委員会委員長 遠藤 登喜子

- | | | |
|---------------------------|---------------------|--------|
| 2) アンケート用紙への記載説明 | | 遠藤登喜子 |
| 3) 研修会全体説明 | マンモグラフィ検診精度管理中央委員委員 | 土橋一慶 |
| 4) 講義 産婦人科医に必要な乳癌の臨床 | | 土橋一慶 |
| 乳房画像診断用語の解説 | | 遠藤登喜子 |
| MMG診断に必要な病理学的知識 | 埼玉県立がんセンター病理科 | 黒住昌史 |
| MMGの基礎 | 聖路加国際病院放射線科 | 小山智美 |
| 5) グループ別読影指導 (~ 指導 / 7班) | (全体指導: | 遠藤登喜子) |
| 腫瘍1: こまくさ女性クリニック | | 石井淳 |
| 腫瘍2: 大和市立病院外科 | | 首藤昭彦 |
| 石灰化1: 癌研究会附属病院乳腺外科 | | 岩瀬拓士 |
| 石灰化2: 癌研究会附属病院乳腺外科 | | 高橋かおる |
| 構築の乱れ1: 健康保険鳴門病院産婦人科 | | 鎌田正晴 |
| 構築の乱れ2: 中山レディースクリニック | | 中山崇 |
| 画像評価: | 小山智美・遠藤登喜子 | |

6) 第2日目へのオリエンテーション

- 第2日目: 7月13日(日).....
- | | |
|----------------------------|----------|
| 1) グループ別読影指導: (続き・ ~ / 7班) | 同上各講師 |
| 2) 読影試験オリエンテーション | 土橋一慶 |
| 【読影試験: 100症例】 | |
| 3) 読影マンモグラムの解説 | グループ講習講師 |
| 【アンケート用紙への記載・研修会受講証配付】 | 柏村正道 |
| 4) あいさつ、研修会受講証配付、他 | 遠藤登喜子 |
| 社会保険横浜看護専門学校学校長 | 坂田壽衛 |
| | 永井宏 |

[第10回] 日 時: 平成15年9月6、7日(土/日)(8:30 / 19:10)
 場 所: 八戸総合検診センター別館(青森県八戸市)
 出席者: 57名(受講者34名・内欠席1名、準講師5名、講師他関係者19名)
 成績評価: A / 0名、B1 / 13名、B2 / 0名、C / 11名、D / 9名

- 第1日目: 9月6日(土)
- | | |
|---------------------------|------------------------------------|
| 司会・進行: 日本産婦人科医会幹事 | 宇津野 栄 |
| 1) あいさつ | 日本産婦人科医会常務理事 永井 宏 |
| | 日本産婦人科医会がん対策委員会委員長 柏村 正道 |
| | マンモグラフィ検診精度管理中央委員会教育・研修委員会委員 大貫 幸二 |
| 2) アンケート用紙への記載説明 | 大貫 幸二 |
| 3) 研修会全体説明 | 日本産婦人科医会がん対策委員会副委員長 鎌田 正晴 |
| 4) 講義 産婦人科医に必要な乳癌の臨床 | 秋田赤十字病院外科 鎌田 収 一 |
| MMG診断に必要な病理学的知識 | 埼玉県立がんセンター病理科 黒住 昌史 |
| MMGの基礎 | 聖路加国際病院放射線科 小山 智美 |
| 乳房画像診断用語の解説 | 大貫 幸二 |
| 5) グループ別読影指導 (~ 指導 / 7班) | (全体指導: 大貫 幸二) |
| 腫瘍1: 健康保険鳴門病院産婦人科 | 桂 真澄 |
| 腫瘍2: 帝京大学医学部産婦人科 | 竹下 茂樹 |

石灰化1：明石市民病院産婦人科 井上 滋 夫
 石灰化2：NTT東北病院産婦人科 小澤 信義
 構築の乱れ1：健康保険鳴門病院産婦人科 鎌田 正晴
 構築の乱れ2：赤穂中央病院産婦人科 福本 悟
 画像評価：小山 智美・大貫 幸二

第2日目へのオリエンテーション/アンケート(1)回収

- 第2日目：9月7日(日).....
- 1) グループ別読影指導：(続き・ ~ /7班) 同上各講師
- 2) グループ読影のフィルム見直し/質問/アンケート(2)回収
- 3) 読影試験に関するオリエンテーション 鎌田 正晴
 【読影試験：100症例】
- 4) 読影マンモグラムの解説 グループ講習講師
- 5) あいさつ、研修会受講証配付、他 大貫 幸二・永井 宏

[第11回]日 時：平成16年2月14、15日(土/日)(8:30/19:10)
 場 所：社会保険横浜看護専門学校(神奈川県横浜市)
 出席者：66名(受講者44名、準講師5名、講師他関係者17名)
 成績評価：A/0名、B₁/23名、B₂/0名、C/17名、D/4名

- 第1日目：2月14日(土) 司会・進行：日本産婦人科医会幹事 渡辺 明彦
 1) あいさつ 日本産婦人科医会常務理事 永井 宏
 日本産婦人科医会がん対策委員会委員長 柏村 正道
 マンモグラフィ検診精中委教育・研修委員会委員長 遠藤 登喜子
- 2) アンケート用紙への記載説明 遠藤 登喜子
- 3) 研修会全体説明 日本産婦人科医会がん対策委員会副委員長 鎌田 正晴
- 4) 講義 産婦人科医に必要な乳癌の臨床と精度管理 精中委委員 土橋 一慶
 MMG診断に必要な病理学的知識 埼玉県立がんセンター病理科 黒住 昌史
 MMGの基礎 市立船橋医療センター放射線部 石井 悟
 乳房画像診断用語の解説(1) 遠藤 登喜子
 乳房画像診断用語の解説(2) 鎌田 正晴
- 5) グループ別読影指導(~ 指導/7班) (全体指導：遠藤 登喜子)
 腫瘍1：聖霊横浜病院外科 郷地 英二
 腫瘍2：中日病院乳腺科 森田 孝子
 石灰化1：順天堂大学放射線科 白石 明彦
 石灰化2：NTT東北病院産婦人科 小澤 信義
 構築の乱れ1：赤穂中央病院産婦人科 福本 悟
 構築の乱れ2：こまくさ女性クリニック 石井 淳
 画像評価：遠藤 登喜子

6) 第2日目へのオリエンテーション

- 第2日目：2月15日(日).....
- 1) グループ別読影指導：(続き・ ~ /7班) 同上各講師
- 2) 読影試験オリエンテーション 鎌田 正晴
 【読影試験：100症例】

3) 読影マンモグラムの解説

グループ講習講師

【アンケート用紙への記載・研修会受講証配付】

柏村正道

4) あいさつ、研修会受講証配付、他

遠藤登喜子

欠席 [社会保険横浜看護専門学校学校長 坂田壽衛]

永井宏

(2) 「乳がん検診用マンモグラム読影に関する研修会」開催結果の活用

読影医育成のための受講者データの蓄積

これまで年度内2回ずつ開催していたが、本年度は3回を開催し、都合11回の研修会における受講者でB評価以上の成績取得ものは169名に達する。これらの成績評価データを、人材育成を図る上での内部資料として活用するため、今後もこのデータの蓄積を図ることとした。

読影指導医・講師育成への対応

MMG併用検診導入における人材確保と育成（読影指導医及び講師）の観点から、他科医師を含む講師研修（A評価取得者）に、本年度もMMG研修会の場を提供した。

平成13年度のMMG研修会から講師研修者を受け入れているが、他科医師との共通の目的意識のもと、産婦人科医療へはもとより医師同士の相互理解にも通じる波及効果も生んでいる。

表 MMG研修会受講者成績評価・講師研修者受け入れ状況一覧（単位：名）

		開催年度(平成)/開催回数											計	
		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	延数	実数
受講者 成績 評価	A	1	1	0	4	0	0	1	1	0	0	0	8	8
	B ₁	12	19	16	11	16	14	10	15	12	13	23	161	152
	B ₂	2	2	1	0	3	1	0	1	1	0	0	11	9
	C	13	36	17	26	22	21	7	18	20	11	17	208	163
	D	12	11	13	4	3	5	10	7	11	9	4	89	70
	計	40	69	47	45	44	41	28	42	44	33	44	477	402
講師 研修者 診療科	産婦人科					5	1	0	0	5	0	2	13	9
	外科					0	6	3	3	0	5	1	18	17
	放射線科					0	0	3	2	0	1	3	9	7
	乳腺科					0	0	0	1	1	0	1	3	2
	計					5	7	6	6	6	6	7	43	35

註1) 実数：重複受講者を最良の成績で集計した場合。

註2) 成績評価：本会主催の研修会における取得成績評価。

(3) 「乳がん検診用マンモグラム読影に関する研修会」開催支援

MMG研修会開催におけるノウハウ等の協力依頼が足立区産婦人科医会からあったため、本会の研修会との調整も兼ねて、宇津野幹事担当のもとで支援を行った。

(4) 「マンモグラフィ読影医師」の状況把握

マンモグラフィ精度管理中央委員会（精中委）ホームページ掲載の読影医一覧のデータ（平成15年8月現在）を集計し、診療科別読影医師数を下表のとおり把握した。

この結果を内部資料として、MMG研修会の今後の運営等において活用することとした。

マンモグラフィ読影医師集計（単位：名/％）

ブロック	産婦人科		外科		放射線科		その他		計	
1 北海道	3	1.6	42	3.5	8	1.6	9	2.7	62	2.8
2 東北	44	23.0	256	21.3	57	11.3	62	18.5	419	18.8
3 関東	57	29.8	228	19.0	115	22.8	103	30.7	503	22.5
4 北陸	14	7.3	99	8.2	31	6.1	20	6.0	164	7.3
5 東海	8	4.2	88	7.3	61	12.1	16	4.8	173	7.7
6 近畿	24	12.6	229	19.1	106	21.0	76	22.6	435	19.5
7 中国	13	6.8	137	11.4	53	10.5	12	3.6	215	9.6
8 四国	13	6.8	50	4.2	25	5.0	10	3.0	98	4.4
9 九州	15	7.9	73	6.1	49	9.7	28	8.3	165	7.4
計	191	100.0	1,202	100.0	505	100.0	336	100.0	2,234	100.0

註）診療科：ホームページ掲載事項（勤務先所属部署）と本会会員名簿より算出。

(5) 「乳がん検診に対する日本産婦人科医会の見解」作成

平成15年8月24日から28日付けまでの朝日新聞の一連の報道は、乳がん検診に対する問題点を提起し、その要点は 専門医ではない産婦人科医が検診に携わっている、有効性が認められているMMG検診ではなく、視触診のみの検診が漫然と行われている、

検診のマニュアルがない、の3点にまとめることができる。この報道への戸惑いの声が多く、多くの会員から寄せられたことから、鎌田副委員長の原案による本会としての見解を作成し、会員には医会報を通じてその要約を掲載し、見解の本文を各支部に送付して、会員等への乳がん検診への対応の周知徹底を図った。

見解の骨子は、第2次老人保健事業（昭和62年）でスタートした問診と視触診による乳がん検診において、その時の検診体制規定に産婦人科医師が明記されていることから発して、それ以後の乳がん検診における産婦人科医の関わりとその成果、今後の展望、今日までの本会の取り組みや関連諸学会の発足への関与と会員の加入促進の経緯などから、産婦人科医が、乳がん検診の専門医としての資格を有していることを明快に示したものである。

3. 資料集「子宮頸がん検診を30歳未満の若年層へ拡大するために」の訂正と活用

前年度に、子宮がん検診小委員会（今野小委員長）で作成（子宮頸がん検診の対象拡大と受診率の向上に向けて、若年層（30歳未満）まで子宮頸がん検診を拡大するために必要なエビデンスを収載）した「子宮頸がん検診を30歳未満の若年層へ拡大するために」について、一部掲載データの更新の上、雑誌への投稿等を通じての社会的な啓発に供した。

4. 婦人科がん検診の検討

婦人科がん検診は、疫学面と検診医（会員等）の資質、検診方法と有効性、精度管理と行

政施策、受診者（社会）の理解と志向、検診対象（臓器、受診者・年齢等）の拡大などの費用対効果も絡めた総合的な検討が不可欠である。

（１）関連情報の収集と啓発

婦人科がん検診事業の検討活動を円滑に行うためにも、日頃からの意見交換等を通じて、行政や関連団体から情報収集に努めた。収集情報への検討と、会員にとって有用な本会情報も加味し、産婦人科医療への啓発（社会、関連諸団体）のため医会報等を通じて適宜その情報を提供した。

（２）小委員会の活動

がん対策委員会内に下記３小委員会（印：小委員長）を組織し、婦人科がん検診に関する検討活動を円滑に行った。

１）子宮がん検診小委員会： 今野・岩倉委員

「子宮がん検診を30歳未満の若年層に拡大するために」の改訂とその活用（投稿）
日母クラス分類の再検討
次年度検討課題の選定（精度管理、HPV検査法、日母クラス分類）

２）乳がん検診小委員会： 森本・寺本委員

MMG読影医師数のデータ集計
自治体における検診記録用紙の収集・検討
がん検診料金調査における追加項目の選定
次年度検討課題の選定（検診用紙の簡素化・統一化、乳癌研究会指導医・認定医基準）

３）卵巣がん検診小委員会： 児玉・中島・青木委員

卵巣がん検診の臨床データの集積
超音波、腫瘍マーカーで検診実施区の実態を調査
次年度検討課題の選定（検診体制、集積データの活用）

５．「婦人科がん検診料金に関する調査」の実施

婦人科がん検診料金調査を、各支部の協力を得て継続実施した。

本年度は、例年の検診料金に関する設問の他に、卵巣がん検診の実施状況と乳がん検診に関する各支部の状況と検診用紙、医療訴訟等トラブルに関する設問を追加して行った。

調査結果は各支部に配布した他、次年度の連絡会で詳細報告を行うこととした。また、収集した乳がん検診に関する検診用紙は、今後の検討のため内部資料とした。

６．関連諸団体との連絡提携

関連諸団体（厚生労働省、日本医師会、日本産科婦人科学会、日本対がん協会等）に職責を含む委員・役員の派遣に努め、動向把握、並びに連携と協調のもとに有用情報を収集し、会員はもとより社会に向けて産婦人科医療への啓発に努めた。

例年、厚生労働省における婦人科がん検診所管課との意見交換の場として「婦人科がん検診問題に関する研究会」を開催しているが、本年度は開催せずに対応した。

また、厚生労働省「がん検診に関する検討会」より乳がん検診における参考人としての担当者派遣の依頼があり、永井常務理事を派遣の上、対応した。

（１）関連学会・研究会

以下の学会等に役員・委員、支部担当者等の参加を図り、情報収集・意見交換に努めた。

平成15年 7月4～5日 第11回日本がん検診・診断学会
9月17日 がん征圧全国大会
9月21日 第2回日本産婦人科乳癌研究会
11月8日 第12回日本婦人科がん検診学会
11月21～22日 第13回日本乳癌検診学会

平成16年 1月16日 厚生労働省「がん検診に関する検討会」

(2) 派遣役員等(現在、各学会、班会議とも職責の枠で人選はしていない。)

関連諸団体からの要請や選挙で参画した担当委員、役員等は以下のとおりで、一部職責役員として本会諸事業との調整にも努めた。

厚生労働省「マンモグラフィによる乳がん検診の推進と精度向上に関する研究」

協同研究員：永井常務理事

厚生労働省「50歳未満の適正な乳がん検診のあり方に関する研究」

協同研究員：永井常務理事

厚生労働省「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」

分担研究者：青木委員

日本乳癌検診学会 / 理事：大村常務理事(兼、評議員)、評議員：岩成副委員長

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 / 委員：永井常務理事

同上研修委員会 / 委員：大村常務理事、宇津野幹事

日本婦人科がん検診学会 / 理事：柏村委員長、永井・大村常務理事

評議員：岩成副委員長、今野・青木委員、清川副会長

日本がん検診・診断学会 / 評議員：柏村委員長、清川副会長、永井常務理事

日本臨床細胞学会 / 副理事長：柏村委員長

評議員：岩成副委員長、今野・青木委員、

永井・大村常務理事、宮城幹事

日本婦人科乳癌研究会 / 世話人：鎌田副委員長(認定医担当)、永井・大村常務理事

日本産婦人科内視鏡学会 / 評議員：今野委員(兼、技術認定医審査委員)

日本婦人科腫瘍学会 / 評議員：今野(兼、幹事)・青木・寺本委員、大村常務理事

日本細胞診断学推進協会細胞診指導医会 / 幹事：今野委員

特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構 / 運営委員：青木委員

(3) 対外活動

がん対策委員会委員・担当役員による委員会事業に関連した対外活動は以下のとおりである。

[講演関係]

- ・若年者(30歳未満)に対する頸がん対策 / 埼玉
- ・若年女性の子宮がん検診 / 千葉
- ・若年者における子宮頸がんの増加と検診の必要性 / 東京
- ・若年者に対する子宮がん検診アンケート調査結果と新潟県の状況 / 新潟
- ・若年者における子宮頸がんの増加と検診の必要性 / 島根
- ・シンポジウム：婦人科がんのスクリーニングの有用性と問題点(子宮頸がん検診の有用性と問題点) / 福岡
- ・シンポジウム：妊娠中の子宮頸がん検診(妊婦における頸がん検診と開始年齢引き下げの意義) / 東京
- ・シンポジウム：母性と子宮頸がん検診(妊婦における頸がん検診の意義) / 栃木

- ・子宮がんなんてこわくない / 香川
- ・当地域の乳がん検診の現況と将来 / 千葉
- ・婦人科細胞診の実際 / 熊本
- ・細胞診総論 / 福岡
- ・子宮頸部病変の細胞診 / 佐賀
- ・子宮がん検診の現状と今後の問題点 / 大分

[論文関係]

- ・子宮がん検診と精度管理 / 第11回日本がん検診・診断学会 (共同発表)
- ・若年層 (30歳未満) 子宮がん検診の意義 / 第37回大宮医学会総会 (共同発表)
- ・旧大宮市子宮がん検診29年の足跡と現況 / 第47回埼玉県医学会総会 (共同発表)
- ・妊婦に対する子宮頸部病変及びクラミジア感染のスクリーニング成績 / 第44回日本臨床細胞学会 (共同発表)
- ・子宮頸部初期病変の保存的治療 / 日本臨床細胞学会雑誌
- ・子宮頸癌検診の検討 / 日本臨床細胞学会雑誌

[その他]

- ・子宮頸癌の発生 (子宮頸部腺癌) / 島根県子宮がん部会活動 (招請講演)
- ・乳癌死亡ゼロを目指して、産婦人科医の役割 / JapanMedical:平成16年3月3日号オピニオン
- ・シンポジウム座長「婦人科がんのスクリーニングの有用性と問題点」 / 日産婦総会
- ・ワークショップ座長「CINの取り扱い」 / 日本婦人科腫瘍学会
- ・学会会長&特別講演座長「マンモグラフィによる乳がん検診」 / 第12回日本婦人科がん検診学会

7. 委員会

以下のごとく委員会を4回行い、その他小委員会・打合会を行った。

[第1回] 平成15年5月12日 日本産婦人科医会・会議室

出席者：柏村委員長 他16名

- (1) 本年度の事業推進：子宮頸がん検診の細胞診報告形式、精度管理、不良検体の扱い
- (2) 小委員会設置 (: 小委員長)
 - 子宮がん検診小委員会： 今野・岩倉委員
 - 乳がん検診小委員会： 森本・寺本委員
 - 卵巣がん検診小委員会： 児玉・中島・青木委員
- (3) MMG読影研修会：年度内3回開催
- (4) 乳房触診用器具 (BUST CARE) : 業者の医会推薦要望は委員会で試用後に検討

[第2回] 平成15年9月20日 日本産婦人科医会・会議室

出席者：柏村委員長 他16名

ゲスト：藤井恒夫部長 (国立呉病院産婦人科)

- (1) 乳がん検診制度の見直し報道に対する医会の対応：医会の見解を作成
- (2) 子宮がん検診と医事紛争：事例報告・問題点協議 (精度管理・指導医の保険加入)
- (3) 小委員会事業： 「子宮がん検診を30歳未満の若年層に拡大するために」の改訂
MMG読影医師数の集計報告

卵巣がん検診の臨床データの集積

- (4) 第11回MMG研修会：2月14 - 15日 / 社会保険横浜看護専門学校 / 受講費改定
- (5) 乳がん自己検診器具試用報告：有用性と消毒等の問題点検討で推薦不可の意見あり

[第3回] 平成15年11月8日 日本産婦人科医会・会議室

出席者：柏村委員長 他13名

- (1) 婦人科がん検診料金調査：調査予定・追加事項（卵巣がん検診の施行）
- (2) 乳がん検診に対する日本産婦人科医会の見解：原案推敲（検診医の表示・資格）
- (3) 小委員会事業：子宮がん検診：「子宮頸がん検診の30歳未満若年層への拡大」の改訂と雑誌への投稿 / クラス分類の再考
乳がん検診：各自治体の検診記録用紙の様式
卵巣がん検診：超音波、腫瘍マーカーで検診実施区の実態を調査
- (4) 第11回MMG研修会（H16.2.14 - 15 / 横浜）：施設利用申請（有料）への対応
- (5) 平成16年度事業計画：担当者連絡会開催の他、FAX等で意見聴取

[第4回] 平成16年2月20日 センチュリーコート（六本木ロアビル10F）

出席者：柏村委員長 他15名

- (1) 婦人科がん検診料金調査：本年度調査結果の推敲と今後の調査に関する提案
- (2) 「乳がん検診に対する日本産婦人科医会の見解」案：一部修正の上、最終決定
- (3) 小委員会事業：来年度検討事項の確認
子宮がん検診：精度管理、クラス分類の再検討、HPV検査法
乳がん検診：検診用紙の簡素化・統一化、乳癌研究会指導医・認定医基準
卵巣がん検診：検診体制
- (4) 平成16年度事業計画・予算：主な事業確認
第22回全国支部がん対策担当者連絡会（7月4日 / 京王プラザホテル）開催
特別講演：がん検診の新たなガイドラインについて（厚生労働省老人保健課）
子宮がん検診の動向について（今野子宮がん検診小委員長）
平成16年度「MMG研修会」開催日程
3回開催で開催地は横浜（ただし、3回目の開催地は未定）